

## がっこう 中川やしお水辺の楽校が開校！

八潮市木曾根地先の中川やしお水辺の楽校において5月17日(日)、開校式を含む開校イベント(中川やしお子供の水辺運営協議会＝事務局八潮市主催)が実施されました。

中川やしお水辺の楽校は地域の熱い思いにより地元有志、行政協力の下、子供達の自然体験活動や環境学習拠点として、十年近くかけてこの3月によりやく完成しました。

ここは隣接する中川八潮フラワーパークとの一体化を目指し、潮位に伴って水位が変化する中川の性質を取り入れて堰で調節する仕組みの水路ではボートを浮かべたり、水辺遊びが楽しめるほか、原風景としての屋敷

林を生かした「中の島」を残して水辺のキャンプや散策が楽しめたり、環境学習やレクリエーション空間としての機能を数多く備えています(全景イメージ参照)。

よく晴れた空の下、関係者代表による安全祈願祭を行った後、運営協議会長をはじめ八潮市長、八潮市議員や江戸川河川事務所長らが出席しての開校式が開かれ、テープカットにより華々しく開校しました。

当日はオープニングイベントとして 協議会構成団体による和太鼓演奏、カヌー体験、写生大会、デイキャンプ体験などの各種イベントが繰り広げられ、約700人の来場者で賑わいました。

全景イメージ



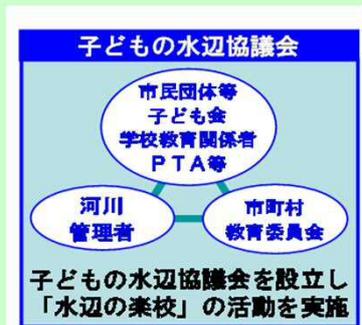
オープニングイベント

### 「水辺の楽校」とは

最近では、子供達が自然とふれあえる場所が少なくなったと言われています。そこで、子供達が安心して水辺に近づける環境学習の場を創出する『水辺の楽校』の整備を河川管理者(国)や自治体で行っています。



これらの写真は活動の一例です。水辺の楽校ではこのような体験を行っています。



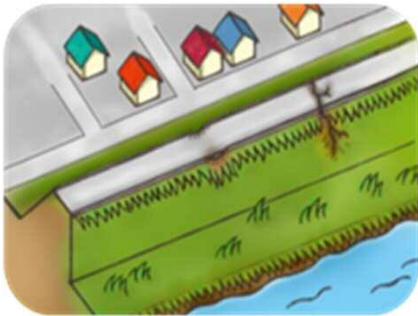
《水辺の楽校のしくみ》

## ★特集～災害に備えて～

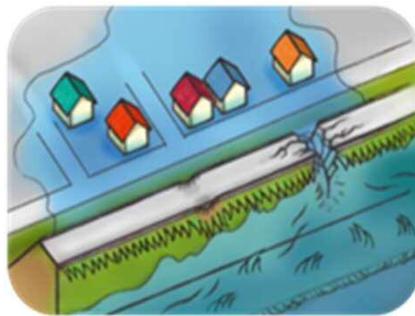
大雨や地震などの自然災害に備えて江戸川河川事務所が日頃から行っている取り組みの一部をご紹介します。

## 1. 洪水に備えた堤防の安全性確保のための取り組み

なぜ、堤防の点検をするの？



もし堤防の点検をせず異常に気づかなかつたら...、堤防の亀裂や陥没が進行します。



その状態が続けば、洪水時に堤防が決壊する危険性も高まります。

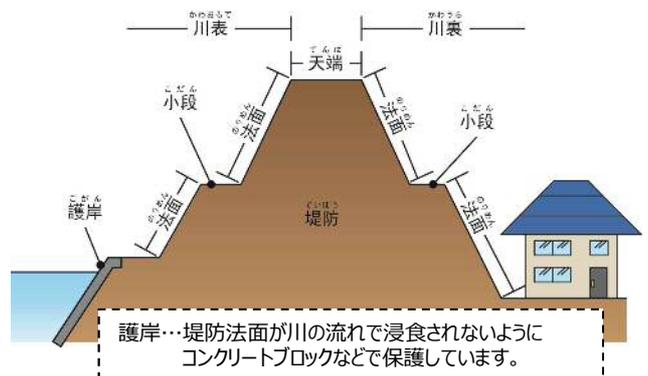


洪水から人々の暮らしを守るには、定期的な点検により堤防の機能を維持・確保することが重要です。

### 実 施 状 況

今年度は、5月26日から堤防点検を開始し、6月23日まで事務所職員を中心に総勢133名、延べ15日間かけて点検を行いました。

堤防点検の結果、江戸川河川事務所管内の堤防で111箇所の変状を確認しました。変状は堤防の法面や護岸に多く見られました。対策が必要な箇所については以下の写真で示すように補修しました。その他の変状箇所も、日々の河川巡視などで監視し、計画的に補修していきます。



補修前



### 堤防の法面の穴

堤防に穴が開いていると水の通り道ができたり、降雨などにより浸食が拡大する可能性があるため穴を埋めて補修しました。

補修後



補修前



### 天端の水溜まり

堤防上に水溜まりができていると常に湿潤状態となり、堤防の土が軟らかくなるなど弱体化するため水が溜まらないようにして、補修しました。

補修後



## 2. 「いざという時のために」 災害対策用機器の操作訓練を実施しました

江戸川河川事務所では災害発生時に迅速に災害復旧を行うために災害対策用の機器を保有しています。

災害時の緊急対応に備えるために、事務所職員、関係自治体職員及び災害協定会社社員により災害対策用機器の操作講習会を毎年実施しています。

操作訓練機器は、江戸川河川事務所保有の排水ポンプ車、照明車、衛星小型画像伝送装置と千葉国道事務所保有の対策本部車、待機支援車を使用し操作訓練を行いました。

(平成27年6月3日実施 講習参加者 約80人)



**排水ポンプ車**  
排水能力 30m<sup>3</sup>/分  
(小学校の25mプールを10分程度で排水できます。)



**照明車**  
照明灯2,000W × 6灯  
(50m離れたところで本を読むことができます。)



**衛星小型画像伝送装置**  
動画伝送回線 × 1画面、音声(電話)回線 × 1回線、LAN回線 × 1回線  
(災害現場から動画を送信したり、電話やメールを使用することができます。)

## 今年の江戸川クリーン大作戦は・・・?

平成27年5月24日(日)(一部、5月31日に実施)、江戸川クリーン大作戦実行委員会(江戸川河川事務所及び江戸川沿川2区11市町)主催による、第35回江戸川クリーン大作戦を行いました。

雨の予報も出ていましたが、当日は天気にも恵まれ、沿川の住民・団体約12000人の方々に参加いただき、約37 m<sup>3</sup>のゴミを回収しました。

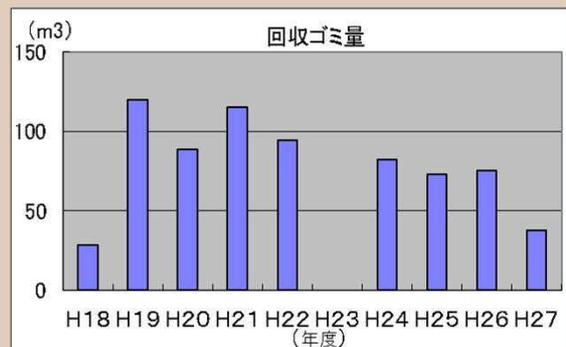


年々ゴミの回収量は減ってきていますが、今年もテレビや冷蔵庫、自転車や古タイヤなども回収しました。

首都圏の水ガメで憩いの場の江戸川が、今後もきれいになっていくよう、毎年、この活動を続けていきますので、皆様のご協力をお願いします。



H18は雨のため、野田市以外中止  
H23は雨のため中止



H26までは、体積(m<sup>3</sup>)報告  
H27から重量(t)での報告を可としたため、体積(m<sup>3</sup>)に換算(1m<sup>3</sup>=0.33t)している

## 3. TEC-FORCE・リエゾンをご存知ですか？

### ◆TEC-FORCEとは◆

※**Technical Emergency Control FORCE**: 緊急災害対策派遣隊という意味。

国土交通省では、大規模災害発生時に被災状況の把握や被災自治体の支援を行い、被害に対する早期復旧のための技術支援を行う職員をTEC-FORCEとして任命し、大規模災害発生時の支援態勢を整えています。

江戸川河川事務所としては平成23年3月の東日本大震災発生時、平成23年9月の奈良県十津川村台風被害発生時に現地へ職員を派遣し、現地での復旧支援のため、被害状況調査を行いました。

### ◆リエゾンとは◆ ※フランス語で「つなぐ、橋渡し」という意味。

国土交通省では、災害の発生時に職員(情報連絡員)を自治体に派遣することにより、自治体が人手不足等の状況でも情報を収集し、迅速な災害派遣等の支援態勢を整えています。

江戸川河川事務所としては、平成25年9月に発生した野田市の竜巻被害発生時に、野田市役所へ、関東地方整備局としては平成25年10月に発生した伊豆大島の台風による被害発生時に職員を派遣しています。



#### TEC-FORCEの活動状況。

奈良県十津川村にて、被害状況調査を行い、状況を報告しています。



#### 伊豆大島でのリエゾン活動。

自治体との連携、情報共有は災害対応に欠かせません！

## あしがき

ジメジメとした梅雨がまだ続いています。梅雨が明ければ、続いて夕立や台風の季節となります。

江戸川河川事務所では、今回の紙面でも紹介したように、台風をはじめとした大雨・洪水や地震など、「いざという時のために」備えて日々業務に取り組んでいます。

川のこと、雨のこと、その他皆様のご意見・ご質問・ご感想をお待ちしています。以下の宛先へ郵便、またはURLからメールにてお送りください。

- ・宛先 〒278-0005千葉県野田市宮崎134 国土交通省江戸川河川事務所 E-naだより編集室
- ・URL <https://www.ktr.mlit.go.jp/edogawa/utility/question.html>

※「E-naだより」は江戸川河川事務所及び各出張所(管理支所)で入手できるほか、江戸川河川事務所H.P.(<http://www.ktr.mlit.go.jp/edogawa/edogawa00691.html>)にも掲載しています。

※このQRコードから江戸川河川事務所管内の降雨状況や水位情報などが入手できます。

